



## Q・航空宇宙産業への対応、 観光開発等の計画は

## A・県などと連携し支援・協力する



建設が進むMRJ組立て工場

**Q** 町長は「空港のあるまち」から「空港を活用するまち」への転換元年であると明言されている。今年5月の新聞紙面に、名古屋空港見学者受入拠点整備及び空港

中央線4車線化計画を県が発表した。当町も航空宇宙産業への対応や観光開発等に重点を置き、将来を見据えた環境整備をアグレッシブに行うべきと考えるが。

**A** 航空宇宙産業を育成・振興するために個別計画は策定していない。しかし、MRJの生産・整備事業の進展は、町が飛躍的に発展するチャンス。県や関係機関と連携し支援・協力を行いたい。

観光開発等に関する個別計画も策定していないが、県営名古屋空港見学者受入拠点施設と連携し、産業観光の拠点として活性化しよう地元役を果たしたい。

## Q・現況の農地使用について

## A・農業委員会が指導している

**Q** 田や畑が駐車場に使用変更されている現況を、把握・指導されているか。

た転用することで周辺農地に悪影響が生じないよう指導をしている。

**A** 農地法では農地を農地以外のものに転用する場合、法に基づく手続きを定めている。この手続きで、農地を転用する目的、利用形態等については把握している。

無届で農地を埋め立ててしまう場合もあるが、農業委員会は農地パトロールを実施し、早期発見に努め、手続きをするよう指導している。